

平成29年度 入学試験問題

国 語

(50分・100点)

受験 番号		氏 名	
----------	--	------------	--

注意事項

- ① 監督の指示があるまで中を開けないこと。
- ② 解答は、全て「解答用紙」に記入すること。
※ 字数制限がある問題は、句読点・記号も字数に含む。
- ③ 質問（印刷不明のところ）がある、鉛筆などを落とした、トイレに行きたくなった、気持ちが悪くなった、などの場合は静かに手をあげること。
- ④ 携帯電話は、音が出ないように電源を切るかバッテリーをはずし、カバンにしまっておくこと。



名古屋経済大学市邨中学校

【一】 次の文章は放送部に新しく入部した真野葉月と部員たちのやりとりである。本文を読み、あとの問いに答えなさい。

天気がいいので、そろそろと隣接する公園に移動した。みんなでベンチに腰を据え、台本を持って読みあわせの準備をしていると、ふいに葉月が言いだした。

「古場くん。このわたしの割り当てぶん、小島さんに代わってほしいんだけど」

「えっ？」

「始めから言ってたはず。わたしはアナウンスに加わるつもりはないって。うまく書きなおせば登場人物は削れるでしょ」

「——そんな、葉月先輩、わたしそんな長いところ、できません」

「頼むよ、真野さん、もうあんまり時間に余裕が……」

みんなが（A）するなか、新納が落ちついたようすで尋ねる。

「なんでだよ、真野。昨日はあんなに熱く語ってたくせに」

葉月は顔をしかめた。

「だって我慢ならぬもの、ああいうやり口。でもそれとこれとはべつ。部のために協力はする。アドバイザーだもの、手伝えることは手伝うし、教えられることはぜんぶ教える。コンクルの準備も全力で真剣にやる」

でも、とつづける。

「わたしは読まない」

「だからなんで」

「べつに。理由なんてない」

そっぽを向く葉月に、新納はお手上げだという顔でため息をついた。古場が困り果てたようすで台本をめくり、珠子は不安そうにそれを見ている。

葉月は知らん顔で遠くをながめていた。憎らしいくらい整った横顔だった。

「——いいかげんにしてよ」

気がつけばそう口にしていた。

「いつまでそんなこと言ってるの。もう時間がないんでしょ、自分が言ったんじゃない、早く練習して録音しないとだめだって——」

「だから、今それをやってる」

「そうじゃなくて！」

「②責めるような口調になる。」

「ちゃんと参加してよ、部の一員でしょ？」

葉月がじっとみさを見てきた。その視線に一瞬、たじろぐ。やがて葉月は、約束が違う、と言った。

「あれ、嘘だったの？ 初めからそのつもりだったの？ とりあえず部員が欲しくて、適当なこと言っただけ？ 入ってしま

えば、わたしがそのうち気を変えらと思った？」

痛いところをつかれた。

「だって——だって、ずるいじゃない」

「ずるい？」

「そうよ。そんなにうまいのにやらないなんてずるいじゃない。

——だって、だって真野さんは、やっぱり特別なもの。技術だって、知識だって、わたしたちとはぜんぜん違う」

がんばって練習して、ようやく少し自信がついても、あまりにもあつさりとそれを超えてしまうじゃないか。葉月も、——のぞみも。

葉月がまたか、という表情で肩をすくめるのを見て、頭にかつと血が上った。

「ほら、そうやって自分は関係ないって顔して、いつだって上から見下ろして。——少しは考えてよ、自分よりずっとうまい人の前で、それでもやってなきやならない者の気持ちだが、あんたにわかるの？」

⑤一瞬、葉月の顔がずっと平らになった。

「わからない」

冷たい声だった。

「わかるわけがない。じゃあ、逆に聞くけど、——そっちこそ、なにがわかってるっていうの」

葉月がぐいとにらみつけてきた。後ろで珠子たちが（A）

している。

「ずるい？ できない？ わたしが（B）のと、あなたが（C）のは関係ないでしょう」

「真野」

「葉月先輩！」

「うまいやつがやれ？ なにそれ」
「ばっかじゃない、と吐き捨てる。」

「だったら、あなたはなんのために放送の大会に出るの。部の存続のため？ 内申のため？ 望みはなに、賞？ 実績？」

ぎらぎらした瞳が、わずかな視線のぶれも許さない強さでまっすぐにみさとの目をとらえてくる。

「それとも、——みんなの前で、上手に読む自分？」

⑥どきりとした瞬間、葉月は、くっだらな、と視線をそらした。

「そんなもののためだったら、ひとりでカラオケにでも行つてればいい」

ふいに興味を失ったようにみさとに背を向けると、バサバサと帰り支度を始めた。

⑦たった今向けられた言葉が、重い石のように胸に残っていた。

（市川朔久子『ABC！ 曙第二中学校放送部』）

(一)本文中の二つの（A）に共通してあてはまる最も適当な言葉を次のアからエまでのの中から選び、記号で答えなさい。

ア おろおろ イ ぴりぴり

ウ わくわく エ はらはら

(二)それとこれとはべつ。とあるが、「それとこれ」の内容にあてはまるものを次のアからエまでのの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 部のために協力することとコンクールの準備の時間に余裕がないこと。

イ アドバイザーとして手伝うこととコンクールの準備を全力でやること。

ウ アナウンスの上達法を熱く語ることとああいいうやり口の批判をすること。

エ アナウンスについて熱く語ることとコンクールに参加すること。

(三)責める とあるが、誰が誰を責めるのか、答えなさい。

(四)約束 とあるが、約束の内容を考えて答えなさい。

(五)頭にかつと血が上った。とあるが、このときのみさとの心情に最もふさわしいものを次のアからエまでのの中から選び、記号で答えなさい。

ア 葉月が上から見下ろすような態度をとったことに対して腹立たしい気持ち。

イ 葉月が自分たちの技術が下手なことをばかにしたことを許せない気持ち。

ウ 葉月が自分たちの技術をあつさりと超えてしまったことに対する悲しみの気持ち。

エ 葉月に嘘つきだと言われてしまったことに対する驚きととまどいの気持ち。

(六)わからない とあるが、何がわからないのか、本文中から三十五字以内で抜き出し、最初と最後の五字を答えなさい。

(七)本文中の（B）（C）にあてはまる最も適当な語をそれぞれ次のアからエまでのの中から選び、記号で答えなさい。

ア 厳しい イ 優しい ウ できない エ わかる

オ うまい カ 冷たい

(八)どきりとした瞬間 とあるが、なぜどきりとしたのか、答えなさい。

(九)重い石のように とは誰のどのような気持ちを表しているか。自分の言葉で考えて書きなさい。

二 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

生物や社会科の授業で、生徒たちは「人間は集団生活を営む動物である」と習います。動物の世界で言うなら「群れ」を作って生活するということです。群れを作る動物と言え、サルや象、イルカなどいろいろな動物が浮かびます。彼らは群れをなしながら、協力し合って餌を見つけ、外敵から身を守り、ねぐらを確保しています。個々の役割が決まっている群れもあるようです。もし、群れの中に、一匹でも群れ全体の利益を無視し、自分だけの利益を追求するようなのがいたらどうなるでしょうか？ もはや群れは成り立ちません。それどころか、彼らは群れで生活するからこそ生き延びてこられた動物たちです。この先、「絶滅」ということも十分にあり得ることでしょう。

人間の生活も同様です。それはほかの動物以上です。役割を分担し、お互いができないことを補い合うことでいまの生活が成り立っています。昔ながらの言い方をすれば、「お互いさま」ということになります。労働と社会、そして人のありようを考えると、この「お互いさま」の感覚を持つことが、これからますます重要になってくると、僕は思っています。

現代社会で起こっている問題の中にも、「お互いさま」という気持ちがあれば解決に向かうものがたくさんあります。戦争などはその最たるものです。経済面に限定しても、多くの企業

や個人が、「自分だけ」とか「一人勝ち」という考え方で利益を追求する姿が目につきます。

経済がグローバル化し、世界規模でものごとを考えなければならなくなってきたいま、「自分だけ得をしよう」という発想は古臭い考え方と言っているでしょう。経済は循環してこそ発展します。限られた資源を有効に活用し、豊かな生活を維持してゆくには、地球に住む一人ひとりの生活にゆとりがなければ不可能なのです。貧しい国、余裕のない国が増えれば増えるほど、環境に配慮した生活をしたくてもできない人々が増えてゆきます。われわれは、もはや地球族という群れの一員なのだと自覚しなければなりません。少数のわがままな行動が、群れを（A）へと追いやるかもしれない、そんな状況にまで来ているのではないのでしょうか。

ちよつと話が大きくなりました。もう少し、卑近な話に戻りましょう。

「お互いさま」という言葉は、別の見方をすれば、「自立」を意味する言葉になります。「お互いさま」というのは、自分でやれることは自分でやり、できない部分は協力して助け合おうという姿勢で人と付き合う態度のことです。これはまさに「自立して生きる」こととまったく同じです。

この「お互いさま」の視点で現代社会の「労働」問題を見直してみます。教科書的に言うと、「労働」は有償の「職業労働」

注3 むしょう

と無償の「家事労働」に分類されます。そこに別項目として「ボランティア労働」が付け加えられることもあります。でも、「群れで生活しているわれわれを支えるために営まれる行為」Ⅱ「労働」と考えれば、職業労働にしる家事労働にしるボランティアにしる、どれも大切な労働であって、そこにはなんの優劣もないことがわかります。「みんなで社会を支え合っている」現実があるだけです。

むしろこれから問題になってくるのは、働く意欲も、また社会へ貢献したい気持ちもあるのに、それを活用する場を、経済情勢によって社会の側で用意できないことでしょう。群れが、群れとしての能力を最大限に生かすためには、社会を構成するメンバー一人ひとりが、持てる力を最大限に発揮できる状況や場があることが大切なのです。

労働を通じて、社会にしっかりと参加・貢献できているという感覚が持てれば、群れを作る動物であるわれわれは安心して生きていきます。社会の平和や安定にもずいぶんプラスとなります。現実社会を見ると、「孤立感」Ⅱ「群れからはみ出た感」がもたくなって起きているのではないかと思える犯罪が増えてきているように思いませんか？

つまり、「お互いさま」という関係が成り立つのは、各自が「群れに参加している」「参加できている」とときであり、「自立」もまた社会参加という文脈の中でとらえる必要があるということ

となのです。現代社会では、「労働」を取り巻く問題が山積しています^{注4}が、その多くは「労働の孤立化」や「労働は個人的な営為だ」という現代的な感覚から生じているような気がしてなりません。かといって簡単な解決方法がすぐに見つかると思えませんが、僕たち一人ひとりが働くというこの意味をもう一度とらえなおすことで、周りの人との関係性を少しずつでも「お互いさま」感覚に近づけてゆくことで、時間はかかっても少しずつ働きやすい労働環境、住みやすい生活環境に変えていけると信じています。

（南野忠晴『正しいパンツのたたみ方 新しい家庭科勉強法』）

注1 卑近 手近でわかりやすいこと。

注2 有償 受けた利益に対して代価を支払うこと。

注3 無償 物を貸したり与えたりしてその代金を取らないこと。

注4 営為 いとなみ

① 彼らは群れで生活する とはどういうことか。本文中の言葉を使い、四十五字以内で説明しなさい。

② 現代社会で起こっている問題の中にも、「お互いさま」という気持ちがあれば解決に向かうもの とあるが、このようなものの具体例を正しい日本語で一つ答えなさい。ただし、具体例は本文中にはないもので、自分の学校生活の中から考えること。

(三)③ 最たるものとはどういう意味か。次のアからオまでのなか
ら一つ選び、記号で答えなさい。

ア 最初 イ 最後 ウ 最大

エ 最小 オ 最近

(四)④ 世界規模でものごとを考えなければならなくなってきたこ
とに関連して、「宇宙船地球号」という言葉があります。
筆者はそれを別の言葉で説明しています。あてはまる言葉を
本文中から八字でぬき出しなさい。

(五)⑤ 「自分だけ得をしよう」という発想は古臭い考え方 とある
が、それはなぜか。あてはまらないものを次のアからエまで
の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「お互いさま」の感覚を持つことが大事だから。

イ 経済は循環してこそ発展するから。

ウ ゆとりがない人や国が増えることはよくないから。

エ わがままな行動をする人が増えることになるから。

(六)本文中の (A) にあてはまる言葉を本文中からぬき出し
て答えなさい。

(七)⑥ 「お互いさま」感覚 はなぜ必要なのか、それを説明した次
の空欄にあてはまる二字の言葉を本文中からぬき出して答え
なさい。

一人ひとりを () させないため。

三 次の傍線部のカタカナは漢字に直し、漢字には読みを答え
なさい。

① 祝いの品を選^ばぶ。

② 蚕^を育てる。

③ 注意して試^みみる。

④ 小さなシアワセ。

⑤ 夏のアツさに負けない。

⑥ 学級委員をツトめる。

